

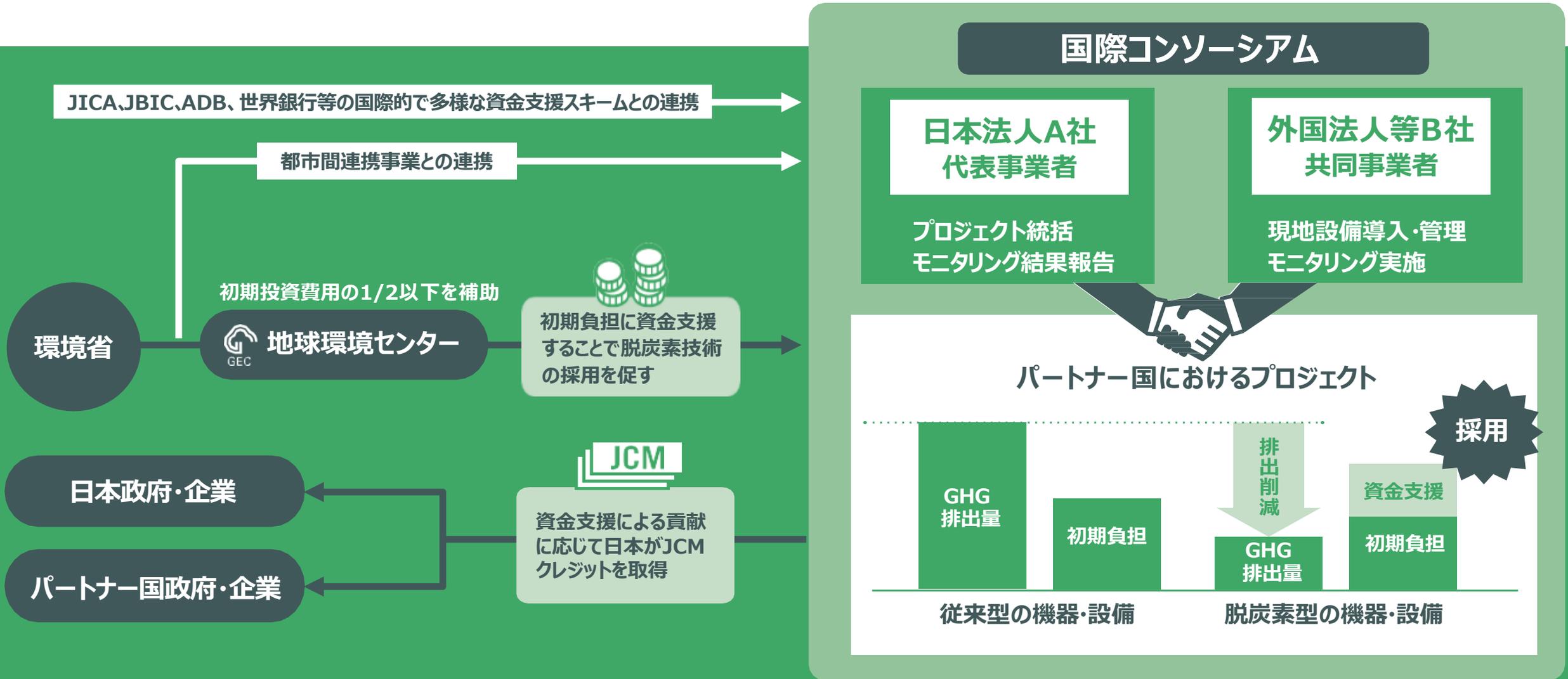


JCM設備補助事業の最新状況

2026年3月11日

公益財団法人 地球環境センター

JCM設備補助事業について



MRV (測定・報告・検証) の実施によりGHG 排出削減量を測定

JCM資金支援事業 案件一覧 (2013~2025年度)

2025年2月20日時点

パートナー国合計：
277件採択 (20/31か国)

● 設備補助：255件 (エコリス7件含む) ▲ F-gas：4件 ■ ADB11件 ■ UNIDO：3件 ● 新技術：2件 ◆ REDD+：2件
● 運転開始 (下線の案件)：219件 JCMプロジェクト登録 (※の案件)：85件

カンボジア：8件

- 高効率LED街路灯*
- 1MW太陽光発電と高効率チラー
- 学校0.9MW太陽光発電
- 20MW太陽光発電
- 学校200kW太陽光発電*
- 配水ポンプのインバータ化*
- 10MW太陽光発電と3MWh蓄電池
- 30MW太陽光発電と11MWh蓄電池

ミャンマー：8件

- 700kW廃棄物発電*
- 高効率貫流ボイラ
- 省エネ冷凍システム
- 省エネ型醸造設備とバイオガスボイラー
- 省エネ型醸造設備
- 1.8MWもみ殻発電
- セメント工場8.8MW廃熱発電
- 4.3MW太陽光発電

ジョージア：1件

- 43MW太陽光発電

キルギス：1件

- 低炭素型市街地建築物 (仮称)

バングラデシュ：5件

- 食品工場省エネ型冷凍機
- 工場315kW太陽光発電*
- 南西部高効率送電線導入
- 高効率織機*
- 紡績工場省エネ型冷凍機*

サウジアラビア：3件

- 高効率電解槽*
- 400MW太陽光発電
- 100MW太陽光発電

チュニジア：5件

- 50MW太陽光発電1
- 50MW太陽光発電2
- 100MW太陽光発電
- 廃棄物管理福岡方式
- 130MW太陽光発電

セネガル：1件

- 省エネ型冷蔵施設と太陽光発電

ケニア：5件

- 工場1MW太陽光発電*
- 2.9MW太陽光発電
- 2.3MW太陽光発電
- 220kW太陽光発電と蓄電池
- 1.7MW太陽光発電

モルディブ：4件

- 校舎186kW太陽光発電*
- アット環礁スマートマイクログリッド*
- マレ広域区廃棄物発電
- BESS及び海洋再生エネ発電

スリランカ：3件

- 13.5MW太陽光発電
- 26MW太陽光発電
- 10MW太陽光発電

タイ：55件

- コンビニエンスストア省エネ
- 省エネ型冷凍機・コンプレッサー*
- 省エネ型空調システム・冷凍機*
- 省エネ型冷水供給システム
- 自動車部品工場コージェネ
- エアコン部品工場3.4MW太陽光発電*
- スーパーマーケット30MW太陽光発電*
- 食品工場バイオマスコージェネ
- 3.4MW太陽光発電
- ▲ フロン回収破壊スキーム
- 8.1MW太陽光発電
- 2.6MW太陽光発電
- 18.9MW太陽光と水上太陽光発電
- 2MW太陽光発電3
- ガスコージェネと22MW太陽光
- 2.9MW太陽光発電
- 化学工場バイオマスコージェネ
- 104MW太陽光発電と129MWh蓄電池
- 55MW太陽光発電と40MWh蓄電池
- 工場1MW太陽光発電*
- 高効率冷凍機
- 省エネ冷却システム*
- 物販店舗LED
- 冷凍機と濃縮機
- 冷温同時取り出し型ヒートポンプ*
- ゴムベルト工場高効率ボイラ
- 繊維工場ガスコージェネ
- 食用油工場バイオマスボイラー
- 37MW太陽光発電と高効率溶解炉
- 機械工場省エネ型冷凍機
- プロダクション技術2.7MW太陽光発電
- 衣料品工場高効率貫流ボイラ
- 1.3MW太陽光発電 (エコリス)
- ORC廃熱回収発電
- 2.9MW太陽光発電
- アルミインゴットの生産性改善
- 48MW太陽光発電と60MWh蓄電池
- 省エネ型織機*
- 二輪車製造工場コージェネレーションシステム*
- 高効率型電解槽
- セメント工場12MW廃熱発電*
- 2MW太陽光発電1
- 5MW太陽光発電*
- 5MW水上太陽光発電*
- 空調制御システム
- 工業団地17.8MW太陽光発電
- 0.8MW太陽光発電と高効率チラー*
- 排ガス熱交換器
- 高効率射出成型機
- 5MW太陽光発電
- 2MW太陽光発電2
- ボイラ、チラーと太陽光発電
- 0.13MW太陽光発電 (エコリス)
- 4MW太陽光発電
- 1.6MW太陽光発電 (エコリス)
- 40PSCaイト太陽電池
- 太陽光発電とヒートバッテリー

ベトナム：48件

- デジタルタコグラフ*
- ショッピングモール320kW太陽光発電*
- レンズ工場省エネ*
- 高効率ターボ冷凍機
- 高効率空冷チラー
- ホテル高効率エアコン2
- 6.5MW太陽光発電
- 16MW小水力発電
- 1.8MW太陽光発電
- 4.1MW太陽光発電
- 高効率変圧器1*
- 高効率変圧器2*
- 高効率変圧器3*
- リーファーコンテナモーダルシフト
- 49MW太陽光発電
- バクニン省廃棄物発電
- 2.5MW太陽光発電
- 7.9MW太陽光発電
- 0.8MW太陽光発電
- 1.9MW太陽光発電

モンゴル：11件

- 高効率型熱供給ボイラ**
- 15MW太陽光発電1*
- 15MW太陽光発電2
- 農場2.1MW太陽光発電*
- 再エネ拡大プロジェクト
- グリーン水素製造と熱供給

フィリピン：22件

- 1.53MW太陽光発電*
- 1.2MW太陽光発電*
- 9.6MW太陽光発電*
- 29MWバイオナリ地熱発電
- ▲ フロン回収破壊スキーム
- 14.5MW小水力発電
- 0.8MW太陽光発電 (エコリス)
- 27MW太陽光発電
- 11.3MW小水力発電
- 7MW太陽光発電
- 地熱発電所の能力改善
- 1MW太陽光発電*
- 4MW太陽光発電*
- バイオガス発電と燃料転換
- 20MWフラッシュ地熱発電
- 28MWバイオナリ地熱発電
- 9MW太陽光発電
- 5.6MWバイオナリ地熱発電
- 1.2MW太陽光発電 (エコリス)
- 10MW太陽光発電
- 4.5MW小水力発電
- 空調システムと再生可能エネルギーシステム (仮称)

ラオス：7件

- ◆ 焼煙管理REDD+
- 高効率変圧器1*
- 14MW水上太陽光発電*
- 11MW太陽光発電*
- 7MW太陽光発電
- 高効率変圧器2
- 66.8MW太陽光発電と15MWh蓄電池

パラオ：7件

- 商業施設370kW太陽光発電*
- 学校155kW太陽光発電*
- 商業施設445kW太陽光発電 II*
- 商業施設0.4MW太陽光発電*
- 商業施設1MW太陽光発電*
- グリーンエネルギー融資プロジェクト
- 0.6MW太陽光発電と0.3MWh蓄電池

バプアニューギニア：1件

- 持続可能なエネルギーセクター開発プログラム

インドネシア：58件

- 工場空調エネルギー削減1*
- 工場空調エネルギー削減2*
- 省エネ型冷凍機*
- スマートLED街路灯*
- ジャカパリン1.6MW太陽光発電*
- 物販店舗LED*
- 吸収式冷凍機*
- 高効率射出成型機
- 6MW小水力発電1
- 高効率熱媒ヒーター
- 2.1MW太陽光発電2
- 化学工場高効率貫流ボイラ
- 2MWバイオマス発電
- ガラス製造工程省エネ
- バイオガスへの燃料転換
- コンビニエンスストア省エネ*
- セメント工場30MW廃熱発電*
- 省エネ型段ボール古紙処理システム*
- アルム工場高効率貫流ボイラ*
- ◆ 焼煙抑制REDD+
- 産業排水処理省エネ
- 省エネ型減菌釜1*
- 2MW小水力発電
- 6MW小水力発電2
- 2.1MW太陽光発電1
- 3.5MW小水力発電
- 5MW太陽光発電
- 板ガラス製造溶融炉の改善
- 1.5MW太陽光発電
- 3.6MW太陽光発電15MWh蓄電池

メキシコ：5件

- 1.2MWメタンガス回収発電
- 30MW太陽光発電1
- 0.5MW太陽光発電 (エコリス)
- レンズ工場省エネ型空調*
- 高効率焼成炉
- 高効率変圧器4
- ▲ フロン回収破壊スキーム (専焼型)
- インスタントコーヒー工場バイオマスボイラー
- ▲ フロン回収破壊スキーム (混焼型)
- 50MW太陽光発電2
- 50MWバイオマス発電2

メキシコ：5件

- 1.2MWメタンガス回収発電
- 30MW太陽光発電1
- 0.5MW太陽光発電 (エコリス)
- 貴流ボイラーと燃料転換
- 省エネ蒸溜システム

コスタリカ：2件

- 5MW太陽光発電*
- 高効率チラーと排熱回収温水器

チリ：17件

- 1MW太陽光発電*
- 3.4MWもみ殻発電
- 3MW太陽光発電1*
- 3MW太陽光発電2*
- 25.8MW太陽光発電
- 9MW太陽光発電1
- 9MW太陽光発電2
- 3MW太陽光発電3
- 6MW太陽光発電
- 9MW太陽光発電3
- 9MW太陽光発電4
- 28MW太陽光発電
- 2.0MW太陽光発電
- 34MW太陽光発電と104MWh蓄電池
- 太陽光発電所への338MWh蓄電池
- 12MW太陽光発電と33MWh蓄電池
- 14MW太陽光発電と40MWh蓄電池

パートナー国	代表事業者	事業名	技術分類	GHG削減量 [tCO ₂ /年]
ジョージア	シャープエネルギーソリューション株式会社	カヘティ州及びクヴェモ・カルトリ州における43MW太陽光発電プロジェクト	再生可能エネルギー	21,501
フィリピン	伊藤忠プラントック株式会社	パリンピノン地熱発電所における発電システム能力改善	再生可能エネルギー	37,180
タイ	シャープエネルギーソリューション株式会社	東部経済回廊内チョンブリ県におけるデータセンターへの55MW太陽光発電・40MWh蓄電池導入による電力供給事業	再生可能エネルギー	25,350
カンボジア	ミネハアミツミ株式会社	プルサット州クラコー地区における30MW太陽光発電・11MWh蓄電池導入プロジェクト	再生可能エネルギー	21,423
チリ	ファームランド株式会社	オヒギンス州及びマウレ州における14MW太陽光発電・40MWh蓄電池導入プロジェクト	再生可能エネルギー	10,310
インドネシア	大塚ホールディングス株式会社	飲料製造工場への3.6MW太陽光発電・15MWh蓄電池の導入	再生可能エネルギー	3,085
ラオス	シャープエネルギーソリューション株式会社	サワンナケート県における66.8MW太陽光発電・15MWh蓄電池導入プロジェクト	再生可能エネルギー	29,812
チュニジア	丸紅株式会社	ガバス地域における130MW太陽光発電プロジェクト	再生可能エネルギー	82,656
合計				231,317

◆ 現在複数の案件についてパートナー国にPINの異議なしを確認中であり、確認が取れ次第採択する予定

省エネルギー



チラー・冷凍機・太陽光発電 (タイ) 関西電力



熱媒ヒーター (インドネシア) フマキラー



チラー・調光型 LED (ベトナム) 東急



貫流ボイラー (インドネシア) DIC

省エネルギー



チラー・空調機・太陽光発電 (インドネシア) 裕幸計装



LED 照明 (ベトナム) 遠藤照明

エネルギーの有効利用



廃熱回収発電 (ミャンマー) グローバルエンジニアリング



ガスコージェネ・冷凍機 (タイ) 関西電力

再生可能エネルギー



もみ殻発電 (チリ) アジアゲートウェイ



小水力発電 (インドネシア) NiX JAPAN



バイナリー地熱発電 (フィリピン) 三菱重工業



太陽光発電 (タイ) 自然電力

再生可能エネルギー



小水力発電 (フィリピン) 豊田通商

廃棄物



メタンガス回収発電 (メキシコ) NTTデータ経営研



廃棄物発電 (ミャンマー) JFE エンジニアリング

交通



バスCNG 混燃設備 (インドネシア) 北酸

○ 応募提案

○ 補助事業開始



応募締切 (2025年度の例) ※3
 第1回締切：5月中旬頃
 第2回締切：7月下旬頃
 第3回締切：9月末日

採択内示
 第1回採択
 第2回採択
 第3回採択

完了実績報告・確定検査
 3年事業：1月末日
 1～2年事業：2月末日

- ※1 採択後 60 日以内に交付決定できるよう、交付申請書は採択後 30 日以内に提出のこと
- ※2 PIN (Project Idea Note)：プロジェクトの概要を相手国側へ説明し、異議の有無を確認するための資料
- ※3 第1回目、2回目応募案件が不採択となった場合、不採択理由の要件が満たされれば同一年度内に再応募可能
 予算に限りがあるため、応募・採択状況次第では、第2回・第3回の公募自体を行わないことがあります
- ※4 昨年度応募し不採択となった案件において明確な採択条件が付されている場合には、条件を満たしたうえで応募してください。

○ JCM制度に基づくクレジット発行までの設備補助事業におけるプロセス



※5 方法論開発とLocal Stakeholders Consultation(LSC)は事業開始後、早期に着手すること
 ※6 プロジェクト登録は、事業完了後1年以内が期限の原則

★ 早期JCM クレジットの発行を目指して進める。

◆採択優先国

下記に示す日本との間でJCMを構築している31のパートナー国（令和8年3月11日現在）
における事業の提案を優先します。

モンゴル、バングラデシュ、エチオピア、ケニア、モルディブ、ベトナム、ラオス、インドネシア、コスタリカ、パラオ、カンボジア、メキシコ、サウジアラビア、チリ、ミャンマー、タイ、フィリピン、セネガル、チュニジア、アゼルバイジャン、モルドバ、ジョージア、スリランカ、ウズベキスタン、パプアニューギニア、アラブ首長国連邦、キルギス、カザフスタン、ウクライナ、タンザニア、インド

※相手国の国内制度や採択決定時点の当該国の情勢を踏まえ、採択を留保等する場合があります。
例えば、**ITMOs移転費用あるいは相当調整費用等を徴収することを検討している国においては、その結果によって設備補助事業の採択ができなくなる場合があります。**

また、パートナー国の事情により審査に時間を要する場合があるため、採択が遅延する可能性があります。
このため、代表事業者又は共同事業者から事業概要等に関する説明をパートナー国政府関係者に事前に行っておくことが推奨されます。

ポジティブリストが定められている国における扱い

◆ タイ案件

ポジティブリストに掲載されている技術を原則優先。

ポジティブリストに掲載されていない技術でも応募は可能。採択に時間を要する可能性あり。

◆ スリランカ案件

ポジティブリストに掲載されている技術以外は、原則採択しない。

◆ インド案件

ポジティブリストに掲載されている技術以外は、原則採択しない。

◆追加性（補助金の必要性）

JCM設備補助事業で事業を実施した場合、パートナー国は、日本側が獲得したJCMクレジット相当分を相当調整により自国の排出量に加える必要がある。

このため、パートナー国から「なぜこの事業をJCM設備補助事業で実施する必要があるのか、どのような点が「追加的」なのか」等について説明を求められる。

そこで、提案書及びPINには

- ① **なぜ提案されている事業で補助金が必要なのか。**
- ② **補助金が投入されることで、どのような課題が克服・改善できるのか。収益性の改善の場合は、具体的な数値で示せるか。**
- ③ **提案技術はどのような点でパートナー国が望んでいる技術といえるか。**
- ④ **事業を通じて獲得したJCMクレジットを日本政府に移転（相当調整）してもなお、なぜパートナー国にメリットがあるのか。**

などについて記載すること。。

◆ PIN新様式 (2025年11月より全面改訂)

JCM_F_PIN_ver06.0⁴⁾

Project Idea Note for JCM Project⁴⁾
(Title of the project)⁴⁾
(Should be self-explanatory and clearly indicate the activity leading to GHG emissions reductions / removals)⁴⁾

Date of Submission: dd/mm/yyyy⁴⁾
 Partner country: _____⁴⁾
 PIN reference number*: _____⁴⁾
(*For the secretariat use only)⁴⁾

The information described in this document may change as the project develops.⁴⁾

1. Description of the project, including how the project reduces/removes GHG emissions⁴⁾
*Please also explain the implementation structure, such as financial structure, money flow of the project, as far as possible.⁴⁾

2. Reasons and rationale for implementing the project under the JCM⁴⁾
*Please explain why the project participants propose to implement the project under the JCM, instead of a purely commercial project. Please also describe how the proposed project provides any benefits to the partner country, given that the partner country should apply corresponding adjustments for JCM credits acquired by Japan.⁴⁾ Please also explain how the project aligns with an eligible/positive list or relevant guidance in the partner country, if applicable.⁴⁾

3. Location of the project⁴⁾

4. Expected Schedule of the project⁴⁾

Expected starting date of operation ⁴⁾	dd/mm/yyyy ⁴⁾
Expected schedule up to the starting date of operation ⁴⁾	

5. Type and duration of crediting period⁴⁾

Fixed period of 10 years⁴⁾
 Renewable period of five (5) years, which may be renewed twice at the maximum⁴⁾
 Other (please specify: _____)⁴⁾

6. Expected scale of investment and financial sources⁴⁾

Total investment cost ⁴⁾	In national currency: _____ ⁴⁾ In Japanese Yen: _____ ⁴⁾
Contribution by Japanese private finance ⁴⁾	In national currency: _____ ⁴⁾ In Japanese Yen: _____ ⁴⁾
Contribution by the Government of Japan for the JCM ⁴⁾	In national currency: _____ ⁴⁾ In Japanese Yen: _____ ⁴⁾ ** _____ ⁴⁾
Contribution from the existing schemes and programmes of Partner Countries ⁴⁾	In national currency: _____ ⁴⁾ In Japanese Yen: _____ ⁴⁾ ** _____ ⁴⁾

* Please explain how the project will be financed and what financial contribution or economic incentive will make the project viable, in case there is no financial support from the Government of Japan for the JCM.⁴⁾
** Please explain what kind of financial support is expected, in case there is financial support from the Government of Japan for the JCM or from the existing schemes and programmes of the Government of partner country.⁴⁾

1⁴⁾

JCM_F_PIN_ver06.0⁴⁾

7. Applicable JCM methodology(ies)⁴⁾

Existing methodology(ies) (Please specify) _____⁴⁾
 New methodology(ies) needed (Briefly explain the status below)⁴⁾
 _____⁴⁾

8. Expected Mitigation Outcome (GHG emission reductions/removals)⁴⁾

Mitigation Outcome ⁴⁾	Amount ⁴⁾	Explanatory note Please explain how these numbers are calculated and the reason for allocation. ⁴⁾
A. Expected GHG emission reductions/removals against reference emissions* (JCM credits) ⁴⁾	tCO ₂ e/ year ⁴⁾ (average) ⁴⁾	
(optional) Credits acquired by Japanese companies and/or government ⁴⁾	% ⁴⁾	
(optional) Credits acquired by partner country's companies and/or government ⁴⁾ <small>These reductions should be reflected in the partner country's GHG inventory⁴⁾</small>	% ⁴⁾	
B. (optional) Expected GHG emission reductions/removals against Business-as-usual (BaU) emissions** ⁴⁾ <small>These reductions, including the amount of credits acquired by Japan, should be reflected in the partner country's GHG inventory.⁴⁾</small>	tCO ₂ e/ year ⁴⁾ (average) ⁴⁾	

* The reference emissions are established below BaU, in a manner that a proposed project contributes to the achievement of the NDC of a partner country.⁴⁾
** BaU emissions represent plausible emissions in providing the same outputs or service level of the proposed JCM project in the partner country.⁴⁾

2⁴⁾

JCM_F_PIN_ver06.0⁴⁾

9. Contacts⁴⁾

Representative Japanese participant for the project and its roles in the project⁴⁾

Name of the entity ⁴⁾	_____ ⁴⁾
Business description ⁴⁾	_____ ⁴⁾
Roles of the entity in the project ⁴⁾	_____ ⁴⁾
Name and position of the contact person ⁴⁾	_____ ⁴⁾
E-mail / Phone number ⁴⁾	_____ ⁴⁾

Other Japanese participant(s) for the project and their roles in the project⁴⁾

Name of the entity ⁴⁾	_____ ⁴⁾
Business description ⁴⁾	_____ ⁴⁾
Roles of the entity in the project ⁴⁾	_____ ⁴⁾
Name and position of the contact person ⁴⁾	_____ ⁴⁾
E-mail / Phone number ⁴⁾	_____ ⁴⁾

Participant(s) of partner country for the project and their roles in the project⁴⁾

Name of the entity ⁴⁾	_____ ⁴⁾
Business description ⁴⁾	_____ ⁴⁾
Roles of the entity in the project ⁴⁾	_____ ⁴⁾
Name and position of the contact person ⁴⁾	_____ ⁴⁾
E-mail / Phone number ⁴⁾	_____ ⁴⁾

Government of partner country⁴⁾

Name of the relevant ministry or governmental agency ⁴⁾	_____ ⁴⁾
Name and position of the contact person ⁴⁾	_____ ⁴⁾
E-mail / Phone number ⁴⁾	_____ ⁴⁾

Government of Japan⁴⁾

Name of the relevant ministry or governmental agency ⁴⁾	_____ ⁴⁾
Name and position of the contact person ⁴⁾	_____ ⁴⁾
E-mail / Phone number ⁴⁾	_____ ⁴⁾

3⁴⁾

事業相談を通年で受け付けています（一部審査期間中を除く）

具体的なポイントを分かり易くアドバイス致します。

送付先：jcm-info@gec.jp（設備補助の相談） info@jcm.go.jp（設備補助を使わない場合）

▶事業相談でのご助言内容（設備補助を使うかどうかにかかわらず共通）

- ✓ 各国NDCにおける対象技術の確認
- ✓ PINの書き方のポイント
- ✓ GHG排出削減量の計算方法

▶応募相談による支援内容（設備補助に特化した内容）

- ✓ 国際コンソーシアム、実施体制の確認
- ✓ 法定耐用年数、補助率、費用対効果
- ✓ 資金調達見込み、許認可取得状況
- ✓ 補助金の必要性・採算性の説明
- ✓ 応募時期、事業スケジュールの妥当性



お気軽に
どうぞ！

「応募相談シート」に貴社事業の内容・取組み状況を記載し、送付ください。
応募相談シートは[こちら](#)からダウンロードください。

JCMAのJCMウェブサイト※

<https://www.jcm.go.jp/>



About the JCM



- JCMの概要

優れた脱炭素技術・製品・システム・サービス・インフラの普及や緩和活動の実施を加速し、途上国等の持続可能な開発に貢献する取組です。



- 公募情報

クレジットを獲得することを目的とした資金支援事業の案件公募情報を公開しています。



- 事例検索

これまでに実施したプロジェクト、現在も継続中のプロジェクトの事例をご紹介します。



- SDGsへの貢献事例

JCM設備補助事業を通じたSDGsへの貢献事例をご紹介します。

※2026年4月より、JCMAウェブサイト公開予定

JCM紹介パンフレット※※

<http://gec.jp/jcm/jp/publications/>



日本語版



英語版

※※2026年4月発行

GECのJCM X

https://x.com/GEC_JCM_Info



ご清聴ありがとうございました

◆お問合せ先／応募相談窓口

公益財団法人地球環境センター（GEC）

東京事務所 事業第一グループ

jcm-info@gec.jp

